

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 30 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24790499

研究課題名(和文) 卒前医学教育改革の支援システム基盤の構築－英国医事委員会の役割から

研究課題名(英文) Study on the System Development of Facilitating Undergraduate Medical Education Reforms

研究代表者

柴原 真知子 (Shibahara, Machiko)

京都大学・医学(系)研究科(研究院)・助教

研究者番号：40625068

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、英国医学教育認証評価機関General Medical Council(1858年設立)の現代医師養成における役割の解明を目的としたものである。英国内で医療行為を行う医師の登録と卒前・卒後・生涯教育に法的責任をもつGMCは、医師養成の指針として「自己主導的生涯学習者の育成」を掲げ、医学教育改革を積極的に進めてきた。本研究では、現地でのインタビュー及び参与観察調査から、伝統的学校教育の枠組みから生涯学習へのパラダイムシフト、総合診療医養成と医学のFeminization、入学者選抜とWidening Participationを、現代医学教育改革の重要な諸相として抽出・分析した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to analyze the role of General Medical Council, an independent self-regulatory body, in undergraduate medical education reforms. GMC, established in 1858, has the statutory responsibility for medical education of all stages from undergraduate to lifelong learning as well as registering medical doctors. In this study, literature review, interviews and participatory observations were conducted. It is concluded that, in GMC's quality assurance work, dialogue with evidence is used rather than check list, with inter-professional teams including medical students rather than team consisted only with medical doctors. Also, in relation to GMC, a few important aspects of medical education were founded, which were 1) Paradigm shift from School Education to Lifelong Learning, 2) Growth of General Practitioner and Feminization in Medicine and 3) Student Selection Reforms and Widening participation. These issues will be investigated further in new projects.

研究分野：医学教育学、生涯教育学

キーワード：卒前医学教育 教育認証評価 教育質保証

## 1. 研究開始当初の背景

イギリスでは1980年代以降から、経営学の概念である Quality Assurance (質保証) が公的サービスの領域にも浸透し、近年、日本に医学教育分野においても、米国 Educational Commission for Foreign Medical Graduates (ECFMG) が2010年に公表した文書により、グローバルスタンダードに基づく国際的分野別評価認証が不可欠となっている。

しかし、教育領域における「質保証」は、商品の質保証とは異なるプロセスや構造を必要とするにもかかわらず、医学教育分野別教育評価認証・評価については、制度上の整備や実施などの議論が先行し、教育質保証という発想の下での教育改革の特徴やそれに伴う課題、配慮すべき点とは何かなどが十分に議論されてきたとは言えない。

医学教育分野における改革とは、医師や指導者として働く人や、学生自身の認識変容に働きかけるものであり、価値や認識枠組みの変容でもある。商品(モノ)に対する質保証と同じような「チェックリスト」評価では機能しない側面があると考えられる。この問いについて本研究では、英国における取り組みを事例として探究した。

## 2. 研究の目的

「1.」で指摘した課題を受けて、本研究では、以下の3点を目的とした。

- (1) 医学教育質評価という制度が個々の実践現場にどのようなプロセスと構造をもって、改革をもたらしているのかを明らかにすること
- (2) 医学教育分野において「質保証」の概念をもって改革に取り組んだ英国の1980年代以降の現代医学教育改革史の諸相及び視点を明らかにすること
- (3) 英国医学教育改革調査研究で得た成果を手がかりとして、日本医学教育改革が直面する課題の共通点を明らかにしつつ、相違点や独自の課題を議論するネットワークを構築すること

## 3. 研究の方法

本研究は、①一次資料及び二次資料の調査とその分析、②英国教育認証機関 General Medical Council、英国医学校、医学教育実践者・研究者へのインタビュー調査を中心とした実地調査によって主に進められた。実施した英国調査は下記の通りである。

《第一回英国調査：2012年9月7日-12日》  
General Medical Council の教育部門担当者へのヒアリング調査、成人教育学者 Prof. Peter Jarvis との研究協議、非医療系医学教育専攻者へのインタビュー調査

《第二回英国調査：2013年9月15日-20日》  
Aberdeen 大学医学部、Cardiff 大学医学部、King's College, University of London, St. George's, University of London, Hull York Medical School, Higher Education Funding Council for England, Pembroke College, Oxford University における入試改革に関する調査

《第三回英国調査：2014年3月16日-25日》  
General Medical Council 教育部門担当者へのヒアリング調査、St George's, University of London における Widening participation についてのヒアリング調査、医学の Feminization についての女性医師へのインタビュー調査

《第四回英国調査：2015年3月17日-30日》  
Pembroke College, Oxford University, St George's, University of London, Queen Mary's College, University of London における Widening Participation のヒアリング及び参与観察調査、1980年代以後の英国医学教育改革に関する資料調査・収集

## 4. 研究成果

### (1) 医学教育質保証のプロセスと構造

英国医学教育改革は、General Medical Council (1858年設立、以下 GMC とする) による各医学部の教育認証表評価事業を軸として進められてきた。GMC は、英国内で医療行為を行う医師の登録と卒前～卒後～生涯学習までの教育に包括的な責任を持つことが医事法 (Medical Act) によって定められている独立機関である。GMC は、1993年に Tomorrow's Doctors を発表して以来、同文書に基づいて各医学部を定期的に視察し、認証評価を行ってきた。

GMC による教育質保証の取り組みは、(2) で指摘するような多職種間連携によって実施されている点に加えて、「チェックリスト」方式ではなく、視察チームによる医学部についての事前の根拠資料 (Evidence) 収集と課題となりうる点の整理、視察の実施とさらなる根拠資料の収集、事後における行動計画の策定に至るまで、医学部側との対話を重視している点に大きな特徴があることが明らかとなった。

### (2) 医学教育質保証事業における多職種間連携 (Inter-Professional Work)

GMC は、19世紀半ばの設立時から、医師によってのみ運営される専門職団体としての特徴を有してきた。しかし、さまざまな改革を経て2003年からは12名の Council メンバーのうち、半数は非医療者の専門業者や市民から構成されるものと、規程が変更された。すなわち、self-regulatory 機関から、inter-professional に regulation 事業を運営する機関へと変容したと見ることができ

また、医学教育質保証の土台をなした改革報告書 *Tomorrow's Doctors* (1993) には、各医学部は、教育学専攻者とともに医学教育改革を進めるべきであるとの見解が示され、翌年 1994 年には当時の保健省が各医学部に補助金を支出し、非医療系を含めた教育学専攻者の医学部雇用が全国規模で進められた。

また、各医学部への視察を行うチームは、GMC にて委員を務める医師だけでなく、視察で重点を置くテーマに合わせた有識者や医師以外の医療従事者（看護師など）、患者団体関係者、医学生など、多職種が連携しながら行われる。本研究では、特に医学生が視察事業にどのように関わっているかなどが明らかにされた。

### (3) 英国現代医学教育改革史の諸相①：卒前医学教育改革におけるパラダイムシフト

上記 (1) (2) は、英国医学教育認証評価機関 GMC を中心とした改革の動向を指し示すものである。GMC は同時に、1948 年の National Health Service 設立以後の、現代医学教育改革を牽引し、また改革の触媒となって機能してきた側面をもつ。本研究では、GMC の認証評価事業だけでなく、GMC が関わった教育改革事業の動きを特に NHS 設立以後から現在に至るまでを跡づけることによって、現代医師養成の特質を明らかにできると考え、調査を行ってきた。

GMC に関連する文献の収集・分析から、1993 年に *Tomorrow's Doctors* を発表して以来、GMC は、医師養成の目標を、知識の完全な熟知 (mastery) を置くことでは、現代における医学及び社会の変化に適応できないことから、卒前教育から生涯教育に至るまで、一貫して「自己主導的生涯学習者 (lifelong Self-Directed Learner)」の育成を目標として掲げ、医学教育の理論と実践におけるパラダイムシフトを試みたと考えられる。この変化は、学習者理解のドラステックな変化を意味するだけでなく、カリキュラムや教育方法、入学者選抜方法に至るまで、医学教育のあらゆる側面での変革を意味したと指摘できる。

### (4) 英国現代医学教育改革史研究の諸相②：総合診療医養成と医学の Feminization

(3) で指摘した英国医学教育のパラダイムシフトは、NHS という医療制度が総合診療医 (General Practitioner) の育成を不可欠なものとしたことが強く影響したと考えられる。

それまで医師は専門診療科別に育成され、その中で専門的知識や技術の習得を特徴していたが、総合診療医は地域の「かかりつけ医」として診療科に関わらず幅広い疾患を診ることを特徴とした。この点から、卒前医学教育の discipline-based のカリキュラムから integrated カリキュラムへと変化し、卒前においてもこの患者 (症例) から複雑

な診療上のポイントや判断を理解する Problem-based Learning のスタイルが主に取られるようになった。

本研究における調査からは、総合診療医養成の具体的指針が出されて以後、医学部への女子学生の増加や、総合診療における女性医師の増加が顕著であることが明らかとなった。また女性医師へのインタビューからは、特に総合診療における Flexible Work や Training が可能となってきたが、その一方で、医師としてのプロフェッショナルリズムとの間に感じる違和感や、キャリア形成への消極的姿勢へと繋がっていることが示唆されるデータが収集された。

この点は、伝統的に保持されてきた医師のプロフェッショナルリズムが、医療ニーズの変化に伴って変容を余儀なくされている事実を指し示すものであり、今後、さらなる研究を必要とする。

### (5) 英国現代医学教育改革史研究の諸相③：入学者選抜改革と Widening Participation

英国現代医学教育改革は、1990 年代～2000 年代前半の大規模なカリキュラム変革を経て、2000 年代半ば頃より入学者選抜制度への着手が進められた。特に、2010 年以降、すべての医学部において Widening Participation と呼ばれる多様化政策が採られている点は注目に値する。医学部入学に見られる経済的・社会的格差が、将来の医療の質や英国社会に影響を及ぼすとの認識に基づいて、各意学校は、小学校～大学受験前の学生に対してアウトリーチ活動などさまざまな取り組みを展開している。

Widening Participation は特に、大学入学以前の学生の Decision-Making Process に関わろうとしている点で興味深い。日本と同様に、中等教育修了した 17-18 歳時点で医学部などに入学する英国の場合、10 代の自己形成において、どのような情報や経験を判断材料としながら医学部入学を選択・判断するかは、医学部入学後の学習姿勢にも影響してくるものと考えられる。特に、卒前教育においては「自己主導的生涯学習者」の育成という学校教育とは異なる価値を貴族とした場合にはこの点はますます重要性を増してくるものと考えられる。

研究代表者は、この英国 Widening Participation の動向と日本との比較研究を科学研究費助成事業採択・若手研究 B「医学部入学者選抜システムと学生の学習経験に関する日英比較研究」(2015-17 年度) においてさらに詳細な調査研究を行う予定である。

### (6) 日本医学教育改革の課題と可能性を議論する Inter-Professional ネットワークの構築

(1) - (6) までの成果を手がかりとしながら、研究代表者は、日本と英国とで共通する課題や日本に独自の課題とは何かを議論

する場として、2014年12月に「学生と読む Tomorrow's Doctors」を発足させ、現在に至るまで定期的な会合を続けている (<https://goo.gl/tCWPZq> 参照)。これは、研究代表者と学生とが、医学部教員・指導医をゲストとして迎えながら、共に Tomorrow's Doctors (GMC, 1993) を精読し、議論することを趣旨とするものである。日本の医学部内で、医学教育の当事者である医学生がカリキュラム改革などに参画する機会が少ない現段階において、本取り組みは、学生と医学部教員との対話の場の形成は、実践モデルの提起という意味でも、貢献度の高い取り組みと考えている。

今後は、看護師や薬剤師などの医療従事者や市民などを交えながら、対話の場を広げていくことを検討している。

なお、この取り組みにおける成果の一部は、第47回日本医学教育学会大会(2015年7月25日)において発表する予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ① 柴原真知子、錦織宏、中村真理子、鈴木俊哉、武田祐子、小西靖彦、福島統、奈良信雄、「英国卒前医学教育改革の動向—General Medical Councilにおける教育質保証の取り組み」、『医学教育』、44(2)、2013年、pp.63-70
- ② 渡邊洋子・柴原真知子、「イギリスにおける女性医療専門職の誕生と養成・支援活動—パイオニア女性のキャリア確立プロセスに関する成人教育的考察から」、『京都大学大学院教育学研究科紀要』、第59号、2013年、pp.99-123
- ③ 柴原真知子、「<特集>英国成人教育学・生涯教育学研究者 P・ジャービス教授来日記念論稿集」、『京都大学生涯教育フィールド研究』、第2号、2014年、pp.99-122
- ④ 柴原真知子、「関西 IPE 研究会 活動報告『専門職教育者交流型 IPE』の可能性と課題」、『京都大学生涯教育フィールド研究』、第2号、2014年、pp.135-141
- ⑤ 柴原真知子、「イギリスにおける女性医師キャリア支援の現段階：医学の Feminization に注目して」『京都大学生涯教育フィールド研究』、第3号、2015年、pp.107-118

[学会発表] (計 8 件)

- ① Machiko Shibahara & Yasuhiko Konishi, 'Learning / non-Learning Process and Key Aspects of Teaching in Clinical Placements: An analysis of medical students' self-descriptions on their learning experience' Association of Medical Education in

Europe, Prague Congress Centre, 28<sup>th</sup> August 2013

- ② 柴原真知子、「イギリス女性専門職開拓期における E・デイヴィスの支援者的役割と思想—イギリス最初の女性医師 E・G・アンダーソンへの関わりを中心に」、『第60回日本社会教育学会研究大会』、東京学芸大学、2013年9月28日
- ③ 柴原真知子、「Multiple-Mini Interview について」、『シンポジウム・特色ある入学者選抜の取り組み：良き医療人材の発掘と選抜について考えよう』、慶応大学医学部、2013年11月30日
- ④ 柴原真知子、錦織宏、小西靖彦、「教育質保証視察事業における『医学生の声』の役割：General Medical Council 視察報告書の分析から」、『第45回医学教育学会大会』、千葉大学医学部、2013年7月26日
- ⑤ 柴原真知子、「医師養成における非医療系教育学専攻者と役割」、『第25回京都市生涯学習セミナー』、龍谷大学、2015年3月1日
- ⑥ 柴原真知子、「英国における医学部入学者多様化政策の意義」、『日本医学教育学会シンポジウム：良き医師となるための資質とは？～医学部志願者と入学試験の実態を探る～』、慶応大学医学部、2015年5月23日
- ⑦ 渡邊洋子、佐伯知子、柴原真知子、池田法子、「専門職におけるキャリアとプロフェッショナルリズムの現代的課題：日英の女性医師の比較研究から」『第7回公教育計画学会大会』、新潟大学、2015年6月21日
- ⑧ 柴原真知子、「イギリスにおける Widening Participation の取り組み」、大滝純司企画「医学部医学科の入学者選抜と教育格差：地域医療の視点からの検討」、『第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会』、つくば国際会議場、2015年6月13日

[図書] (計 2 件)

- ① 柴原真知子、「生涯学習社会における学習支援者の仕事と役割」前平泰志監修・渡邊洋子編著『生涯学習概論：知識基盤社会で学ぶ・学びを支える』、ミネルヴァ書房、2014年、pp.118-136
- ② 柴原真知子、「聴き取ることから学ぶ」前平泰志・渡邊洋子編著『学びのフィールドへ』、松籟社、2015年(刊行予定)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

柴原 真知子 (SHIBAHARA, Machiko)  
京都大学大学院医学研究科・特定助教  
研究者番号：40625068

### (2) 研究協力者

《国内協力者》

小西靖彦 (KONISHI, Yasuhiko)  
京都大学大学院医学研究科・教授

渡邊洋子 (WATANABE, Yoko)  
京都大学大学院教育学研究科・准教授

《海外協力者》

Prof. Peter Jarvis  
Emeritus Professor, Department of  
Continuing Education, University of  
Surrey

Prof. Jim McKillop  
Chair, GMC Undergraduate Board, Emeritus  
Professor, School of Medicine, University  
of Glasgow

Dr. Goodsman Dane  
Lecturer, Queen Mary College, University  
of London

Dr. Jeremy Taylor  
Lecturer, Pembroke College, Oxford  
University